

新潟県

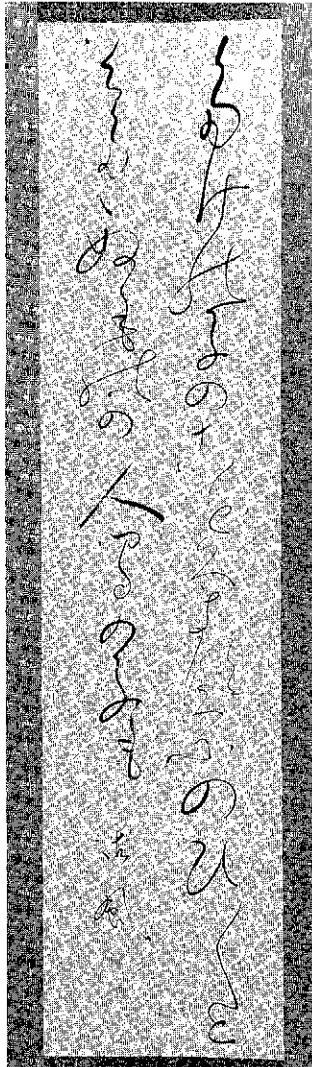
平成元年

# 公民館月報

11月  
第441号

シリーズ 生涯学習の推進と公民館(6)

## 実践事例 学習情報の提供



相馬御風「和歌一首」

昭和8年(1933)ころ

紙本墨書軸装

新潟県美術博物館所蔵

たけの子のごとくまっすぐにのびのびと

そだたぬものか人間の子も一御風<sup>ひと</sup>—

子供の素直な成長を祈るような御風の伸  
びやかな筆づかいが気持ちよい。

### 第 2 回 評 議 員 会 開 催

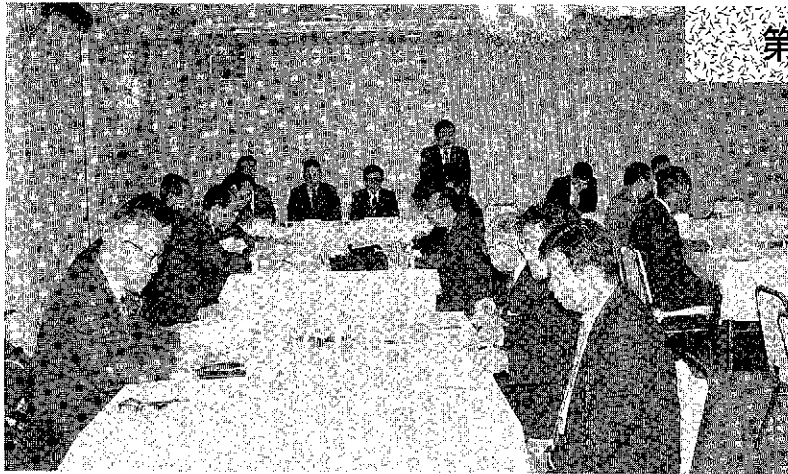
## 平成二年度特別事業

# 「四十年誌」の作成決まる

## 県公連創立四十周年を記念して

九月二十八日(木)、新 員会が開催された。

潟市の平安閣を会場 昭和六十二年歳入歳出決算  
に、本年度第二回評議 承認、来年度事業として県公  
連創立四十周年記念



誌の作成などが決められた。

また、審議終了後、県公民館大会の持ち方について活発な意見交換会が持たれた。

出席二十八名(欠席七名)、来賓に県社会教育課長西尾典真氏、同社教主事関吉彦氏をお迎えし、定

刻午後一時に開会。木下会長の開会のあいさつに続いて、

西尾県社会教育課長から、県生涯学習推進本部の設置、国の中央教育審議会の動きにふれ、本県公民館関係者の一層の活躍を期待する旨の激励のあいさつがあつた。(概要は別掲)

ついで、中魚川西町公民館長 保坂国夫氏を議長に選出し、議事に入る。

報告事項  
① 平成元年度会務の中間報告。  
② 全公連、関プロ公連の諸会議・研究集会の等の報告。

審議事項  
1、昭和63年度歳入歳出決算  
歳入総額 二、九七〇、五七〇円  
歳出総額 二、〇〇三、〇三〇円  
差引残額 九六七、五四〇円

残額は平成元年度一般会計へ繰

## 従来の発想からの脱皮を

### 西尾県社会教育課長のあいさつ要旨

この機会をお借りして生涯学習の推進について、県・国の動

きを紹介しあいさつとします。

県では、生涯学習推進部会を庁議の中に設け、情報交換等を密にしつつ県の各部署の所掌する生涯学習に係る施策を効果的総合的に進めることにしています。

また、国においては、第14期



西尾 課長

り入れ。  
なお、監査結果は、監事を代表し、燕市中央公民館長高橋宏氏から報告され承認。

2、第40回県公民館大会収支報告  
総収入 二、三〇八、六三〇円  
総支出 二、三〇六、三三〇円  
差引残高 二、三〇〇円

右のとおり決算を報告承認。  
3、平成二年度の特別事業。  
県公連創立40周年を記念して「四十年誌」を作成することに

ついて決議された。  
内容は、沿革史(誌)のほか各公民館の現状に関する記録などになると思われるが、詳細は実行委員会(仮称)を特設して企画編集に当ることになる。なお単価についても実行委員会で提示されるが、三千元から三千

結果は、従前どおりの方式を主軸に、マンネリ化しないよう新鮮なテーマや、講師・発表者等に地区では得にくい人を得ることが望ましいということであった。

最後に副会長平沢三春氏(長岡市中央公民館長)のあいさつで全日程を終了午後三時十分閉会した。

中教審の生涯学習小委員会、法律の制定を念頭において、次のことが論議されています。

1、国・県・市町村における生涯学習を総合的に進めるための組織の在り方について。  
2、生涯学習推進に係る職員の資格について。ここでは、社教主事・図書館司書などの生涯学習に係る既存の職員との関係をどう整理するかという問題を含んでいます。

(次面上段に続く)

3、生涯学習のモデル重点地域整備について。これは、各種学習施設を集中的に配置した拠点地域を全国的に配置して行うというものです。

4、生涯学習センターについて。ここでは、特に都道府県レベルのものとしてどのような機能が必要かの論議がなされています。二つの考え方がありますが、その一つは、市町村など各種学習活動を支援したり、コーディネートしたりする役割を担うというものであり、もう一つは、広域的あるいは、高度専門的な

事業の直接の事業主体としてとらえるものです。

話を県公連に移し、第40回県公民館大会でのパネルフォーラムで激しい意見もありました。今や、生涯学習時代とはいっても、言葉が先行しているようですが、これを地についた形で推進していくためには、組織・人員の問題等を含め、必ずしも十分な体制ができていません。しかし、その一方で従来のような施設をつくれればよい、人を増やせばよいという考えでは、住民の多様化している学習ニ

ズに現実に対応することはできないでしょう。もう少し発想を変えなければならぬ部分があるのではないのでしょうか。

公民館において、学習事業者として、いろいろな活動をなさっている皆様のお力をお借りして今後の県の行政のあり方を考えていきたいと思えます。



# 辛口

先日、中条青年会議所が「挑戦ノ中条新時代」なる冊子を発刊した。さす

の精力的結集だと感心させられる逸品である。そこで、その中の一部を紹介したい。

## 小さな国際化

中条町長 熊倉信夫

一部を紹介している。保育園では、「アメリカ人の親の方々は大変協力的であり、ポテトを食べない子供のために、毎日共にポテトを食べてみせ、食べさせ

るようにした。」習慣の違いに於いては、「子供の新しい遊びが開設され、家族を含めて七十人位のアメリカ人が住んでいるが、その中の、保育園・小学校にいるアメリカの子供達の生活の

達には体育の授業前に教室で着替をするが、彼は体重測定の時と同じように、人前で絶対に服を脱がない。そこで彼を教師用の更衣室に連れていった。すると

## 公民館は公営

### カルチャースタールか

長い間、公民館に勤務したが、日頃私は、公民館を評価するポイントとして事業を重視してきた。

なぜならば、如何に施設が立派であり、職員や予算が充実しておっても、公民館が市民

会館やカルチャースタールといささかも変わらないというのでは、公民館とは言えないのではないかと思うからであり、公民館が地域における生涯教育の中心的施設として、その役割を果たすのは事業であると考えるからである。

「事業は公民館の生命」という考え方に立って、実践をとおしての反省をこめて、公民館の今日的課題として次の四点を提起したい。

○ まず第一の課題は、「最近の公民館は公営カルチャースタールではないか。」ということである。このことは昨年、糸魚川市で開かれた県公民館大会の記念講演の講師・西ヶ谷悟先生も、全国公民館連合会の機関誌・月刊公民館で指摘されているが、最近の公民館で行なわれている学

## 続公民館日記(6)

級、講座等の内容は、学級生の希望する趣味的なものがきわめて多く、個人を満足させるだけに留まって、地域づくりのメンバーとしての人づくりにつなごうことである。

○ 柏崎市では、全市公民館共通の重点目標として生涯教育の振興

を掲げ、個(人)の完成を目指す公民館の生涯学習活動と、全(地域)の完成を目指す住民のコミュニティづくりが、織物の縦糸と横糸のような密接な関係で進められている。

○ 日頃私は、公民館活動の裏打のないコミュニティづくりは成功せず、コミュニティづくりを伴わない公民館活動は振興しないと考えてきたが、公民館が目指す個は、コミュニティづくりをとおしてこそ真の個の完成がなされるのではないだろうか。

(柏崎市中央公民館 元事務局長・徳間助夫)

# 進と公民館 (6) の 提 供

生涯学習の推進にあたり、住民に対する学習情報の提供は極めて重要なことであり、そのサービス活動の主役は公民館である。と吉川論文は指摘している。

もつとも、これまでも公民館は積極的な情報サービス活動を行ってきたところである。しかし、これは、どちらかというところと公民館の内容を主とした情報であったり、サービス手段が活字メディアにのみ頼っていたり、情報があがるが、今後は公民館以外の施設で行われる事業・グループ・指導者・教材などに関する情報について、いわゆるニューメディアによる手段なども考

る必要がある時代である。

## 川口町の場合

川口町では、行政広報紙による生涯学習に関する情報を掲載している他に、「生涯学習かわらばん」というネーミングの情報紙を発行している。

これは川口町生涯学習推進本部が発行しているもので、毎月一回年間十二回発行するもの。公民館・図書館事業の紹介とともに、生涯学習に関する啓発的な内容も掲載している。

「かわらばん」の一隅に図書館だよりのスペースを設け「生涯学習についての相談がありましたら図書館の係りへどうぞ」という一行を載せたところ、早速「古文書の読み方」を学習し

たいが……、という相談があり、「二行の力の大きさに驚いた」と、桜井社会教育主事が述べた。

## 能生町の場合

能生町でも月二回発行する行政広報紙を活用して、単に公民館の事業だけの紹介でなしに、広く関係機関等で行う学習情報の提供にも意を用いて生涯学習の推進に役割を發揮している。

それはかりでなく、能生町では有線放送 (NYK 能生町有線電話放送協会) による学習情報の提供にも取り組んでいるのが特色である。

ここでは、NYK が公民館に常時取材に来ているということであるが、内容によっては教育

委員会側からも日時を指定して放送を依頼するなど、連携を密にした情報提供を行っている。と、丸山社会教育課長補佐が語ってくれた。

## 新井市の場合

新井市では、目下施設のネットワーク化と取り組んでいるが、さらに、情報のネットワーク化も検討中の方である。

これは、公民館・図書館・勤労青少年ホーム・勤労者研修センターの四施設の連携協力により、生涯学習推進に関する諸事業の有機な連携と取り組んでいるもので、更に情報ネットワーク化により、より広範な情報源の確保と提供手段の多様化を検討中である。

## 黒埼町の場合

昭和六十年以来生涯学習推進モデル事業に取り組んでいる西蒲原郡黒埼町教育委員会 (公民館) の情報提供サービスの実際を紹介しよう。

### 一、情報の収集について

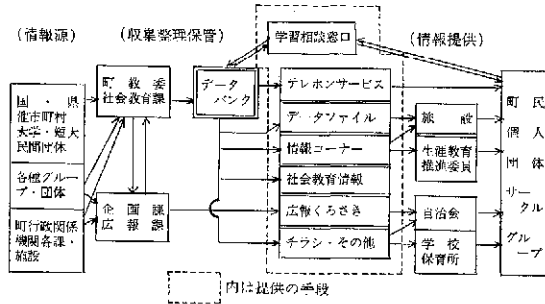
情報を提供するには、情報源となるべきものを収集しなければならぬ。そのため、昭和六十年の当初、町の行政や民間の団体はむろんのこと、近隣の町村・県内の大学短大などに趣旨を説明し、生涯学習に関する学級・講座の情報や学習イベント情報の提供を依頼したところ極めて好意的で、以来毎月情報資料は確実に入手されている。

こうして収集した情報資料は、社会教育課内にデータベースを設置し、十冊のファイルに目的別・種類別に分類し、整理保管にあつてはいる。そこから選択し、それぞれの手段で町民に広く情報を提供しているものである。

### 二、情報の提供

黒埼町の情報提供活動は、図 1 に示されているとおりであるが、始めからこのように整備されていたわけではない。四年間の試行錯誤の中から図のように

〔図1〕 情報提供相談システム整備図



# シリーズ 生涯学習の推

## 実践事例 学習情報

1、データファイル  
 最初はデータファイルから始めた。つまり、データバンクに収集整理された生涯学習の情報を図書館・公民館・公民館分館(23施設)に配布し、それぞれの施設ではファイルに綴じて、ロビーや談話室などにおき、住民に対して自由閲覧ができるようにした。だが、これはあまり効果的ではなかった。というのは、公民館・図書館の利用者が多くロビー等は素どおりしてしまふ。また、立ち寄っても仲間どうしの立ち話しの場になってしまう。ファイルを手にするには、ソファアに腰をおろし、ゆったりと落ち着いた雰囲気の中でないとページをめくるゆとりがないからである。

2、情報コーナー 掲示板  
 この反省から、「情報コーナー 掲示板」を設置することにした。ポスター・チラシなどにより公民館利用者などに視覚を通して目に入るように工夫した。この「情報コーナー」は効果があり、積極的に活用している。但し、情報資料を単に掲示板に貼りさえすればいいというものではない。どのように掲示したら、目をひくかという掲示効果を常に工夫する必要がある。

3、広報紙の活用  
 続いて、広報紙による情報提供活動があるが、これは殆どの市町村でも行っていることである。黒埼町では、「広報くろさき」(行政広報月刊)と「社会教育情報」(季刊)の二つで情報を提供している。が、当然のことながら、毎月定期に刊行している「広報くろさき」は、情報提供の効果は大きい。行政広報のため、生涯学習情報に十分のスペースを割けない難点がある。一方、「社会教育情報」は生涯学習情報を提供するには申し分ないが、不定期のため周知能力が万全ではない。

4、チラシによる情報提供  
 これは、民間事業が宣伝にチラシを手渡しで配って成果を得ていることにヒントを得たもので、公民館の学級や講座が実施されている機会を利用して、受講者に配布したり、スポーツのために体育館にきている人や、イベントの機会を利用する等してチラシを配布する方法である。更に、幼稚園や小学校の園児・児童などをとおして配布する方法は極めて効果が高い。(図

この点を23の施設の職員に情報提供の重要性を認識させる指導も忘れてはならないこととなる。

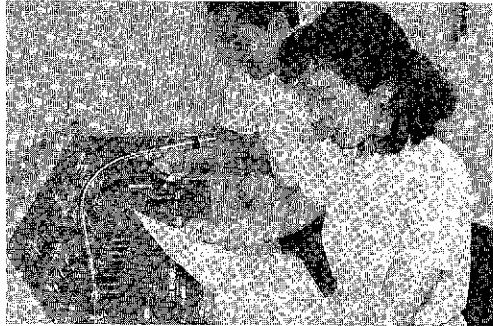
1 参照)  
 5、テレホンサービス  
 最後にテレホンサービスがある。この方式の情報提供は、生涯学習モデル推進事業を始めた当初から取り組んできたもので、電話を介して情報を提供する方式のもので、一回の通話二分三十秒の中に情報を録音テープで吹き込んでおくものであ

人からの電話があるほどになった。テレホンサービスは、他の情報提供が、住民にとって一方的な受け手の立場にあるのに対して、住民が自ら情報を得ようとする積極性が必要とされるもので、利用頻度が高くなるということはそのだけ情報が有効に利用されているという証拠になる。(但し利用度はNTTから調べてもらう以外は一般には分からないようになってる。)

開設のための経費として十万円程度が必要であるが、そのほかには月々基本料金二二〇円と安価な経費で開設できるもので、今後の情報提供手段として延びるものと思われる。

三、公民館との関わり  
 黒埼町の場合は、前記の情報提供のうち1、データファイルの設置、2、情報コーナー 掲示板の設置、3、チラシの配布への協力の、三点が公民館の役割となっている。

公民館分館長は、教育委員会からうけた情報資料を、掲示・展示するための掲示板のレイアウトに創意を凝らしたり、データファイルの置き方や情報資料の入れ変えに意を用いるなどに工夫することが重要な仕事となる。



テレホンサービス (情報インプット中)

# 糸魚川市根知公民館

## 実践記録シリーズ

(36)

### 「アタック」前へ進め

#### 根知むらおこしふるさと協会

はじめに

根知地域は糸魚川市の中心部から約10軒南に位置し、昭和29年に町村合併で糸魚川市に編入。現在57戸、人口2千人弱。合併当時の人口より半減している。面積50・76平方

料、山林80%、耕地20町歩、畜産乳牛約50頭、二種兼業が中心の純農村地帯である。

この根知地域の活性化を図るために、地域にある天然・歴史・産業・人文の四資源を効果的に

活用し、新しい人材を発掘し、このふるさとに、これからも住みたくなるような、また、誰にも胸を張って誇れる「ふるさとづくり」をしようという空気が強まってきた。そして、昭和63

年8月5日、ついに「根知むらおこしふるさと協会」(以下ふるさと協会という)が公民館の働きかけにより誕生した。(組織機構図参照)

ふるさと協会は発足に当り、

全会員で一つの約束をした。それは「あくまでも他に頼らず、自力で頑張ろう!!」ということである。そして、「蘇えれ古里、日指せ21世紀」を目標に、「アタック21」をキャッチフレーズとした。

目標が定まり、会の組織もできた。村おこしは実行団体であり、挫折は許されないと決意した。息の長い継続が重要である。そのためには、人材の確保が必要となった。幸にも、これまで公民館を中心として、地域のための学習や行事を真剣に取り組んできた仲間がメンバーに加わってくれ、推進力になってくれた。

#### 事業への取り組み

図に見られるように事業の部門を、アタック部、イベント部、特産部の三部門とし、正副部長を中心に活動している。

#### 一、アタック部

21世紀に夢を馳せる大きな事



第1回モトクロス大会出発前の風景

業(駒ヶ岳に日本一の壁画を描こう)の夢を持っているが、現在は、戦国時代の通信メディアであった「のろし上げ」を再現すべく、春日山城目指して四つの山城で復活している。

更に、第一回モトクロス大会を実施し、50人が集る大会にできて大成功をおさめた。今後は日本一のモトクロス大会を目指して頑張っている。

#### 二、イベント部

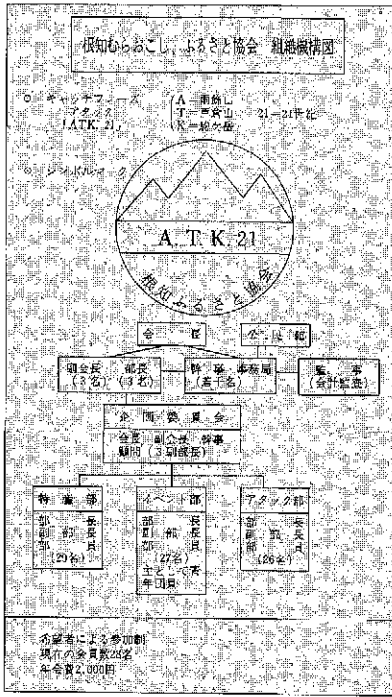
失なわれつつある伝承行事の継承に重点をおき、新しいものを加えて、時代のニーズに添えられるイベントにしようというものである。地域の資源(山・川・スキー場・重要無形文化財・塩の道など)を利用し、更にはフォッサマグナの開発など地球

的資源の活用とも取り組んでいる。 三、特産部 村おこしの最重要課題としての一村一品運動の一環として取り組んでいる部である。現在はギョウジャニンニク・モミジガサ・アマドコロその他自然薯・ぜんまいの人工栽培は当地が先進地でもあり、多くの視察者が訪れる地でもある。淡水魚(カジカ)の養殖もはじめている。これらの中から、果たして何が地域の特産として生き残るか、これからの勝負である。

私たちが「村おこし」も、ようやく2年目。まだその成果は目立ってはいない。しかし、住民の多くは「このままでは、むらは崩壊してしまふ。何とかしなければ!!」という危機感を持ち、少しずつ「村おこし」に関心を持ち、期待を持ちはじめたことは確かである。

#### むすび

今後の活動の成果に見るべきものを持ちたいと思っている。金のある者は金を、知恵のある者は知恵を、力のある者は力を出しあい、地域の人たちが全力を出して村おこしに協力すれば必ずや一大展覧が開かれるものと思っている。(根知公民館長 山田至文記)



# 分館広報活動五周年 地域連帯の要に

## 十日町市下条公民館下組分館

十日町市の下条公民館下組分館では広報紙「ちやのみばなし」を刊行して五年目を迎えている。

B4判横組みの表裏に手書きで地域の情報がたくさん掲載されている。九月五日刊行のものが第64号となっていた。

下条公民館には四分館あり、

かなめ

分館活動の一つの寄りどころにと、どの分館も広報紙の作成は活発の由。中でも、最も古く、活発なのがこの下組分館の「ちやのみばなし」であるという。

今年三月には、あしたの新潟県をつくる運動協会から、第一回コミュニティ情報紙コンクールにおいて優秀賞(手書き

部門)を授賞した。

この広報紙は、下組地域の住民の自主活動として、編集委員の手によって作られているもので、下組地区の四部落百六十戸に關する、月々のトピックスや、啓発記事などが盛り沢山掲載されており、編集委員の気配りや心づくしのほどがにじみ出ている。

今年には五周年を迎えたという。本紙に紹介したのはその記念すべき第61号である。

地域住民の心を一つにするよりどころとして、更に充実した広報活動の展開をいのる。

### 黒埼町教委社会教育主事

白井 仁六氏 (38歳)

黒埼町は生涯学習推進のモデル事業を進め、県内外から注目を集めている町。白井氏はその町の社会教育課と公民館の仕事をごこなす四年目のベテラン。公民館では、高齢者教育・成人教育を担当。他方では生涯学習推進本部事務として、「情報の収集と提供」に取り組んでいる。中



でもテレホンサービスが目玉なので、どうしても仕事の関心はそこ

へ行くという。

「具体的にどんな仕事を？」

「原稿づくりです。電話の通話回線の中に情報テープを吹きこむ原稿です。数ある情報の中から適切なものを選別し、二分三十秒の時間の中の的確な情報を知らせなければならぬので、一字一句おろそかにできません。」

「それは大変だ！月一回？」

「月二回です。最後まで受話器を置かせないようにと、文章づくりには腐心しています。とにかく、よりよい原稿づくりが当面の課題です。」と話す一語々に迫力が伝わってきた。(上村)

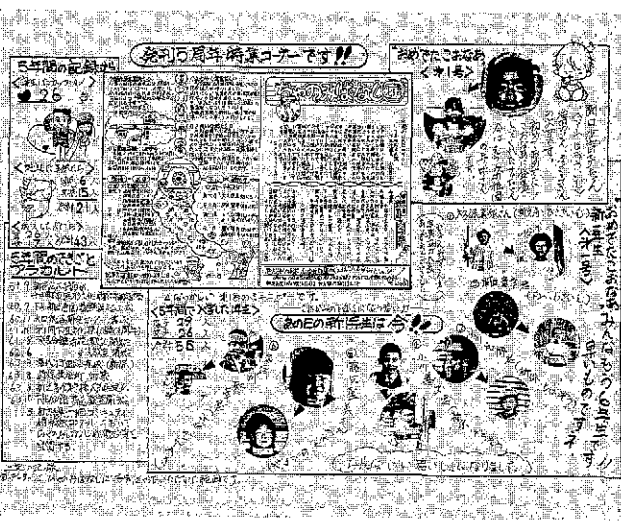
## 素顔拝見

### 川西町教育委員会社会教育係長

関口 真人 (40歳)

農林行政に長く籍を置いた後、昭和58年から教育委員会の

をふるっている。参加者五十人の盛況という。数年前から、町をあげての嫁不足対策に取り組む今年も独身男性を連れて、9月10月にかけて10日間位を二回にわたり、橋渡し役としてフィリピンに渡り、数日前に帰って来られたばかり。今までに七組のカップルが誕生。地域活性化へ向けての大役もあり、多忙な日々を送っておられる。(十日町市公民館 社会教育主事 小林宏行記)





五泉市教育委員会では、「健康とスポーツ」と題する文化講演会を開催する。

同教委では、例年文化の向上を狙ったイベントを実施しているところであるが、今年、念願の大会館が竣工したことを

## 新体操の山崎浩子さんを迎えて 文化講演会開催案内 五泉市総合会館で

記念して「健康とスポーツ」に焦点をあてたものである。

講師は、ロサンゼルスオリンピックの新人体操部門で華麗な演技による活躍をした山崎浩子さんである。

五泉市民だけでなく、広く近隣の市町村の希望者の聴講を歓迎している。

日時 平成元年12月3日(日)  
午後2時～3時30分

会場 五泉市総合会館中ホール

主催 五泉市教育委員会

入場料 無料



十一月二十三日～二十七日

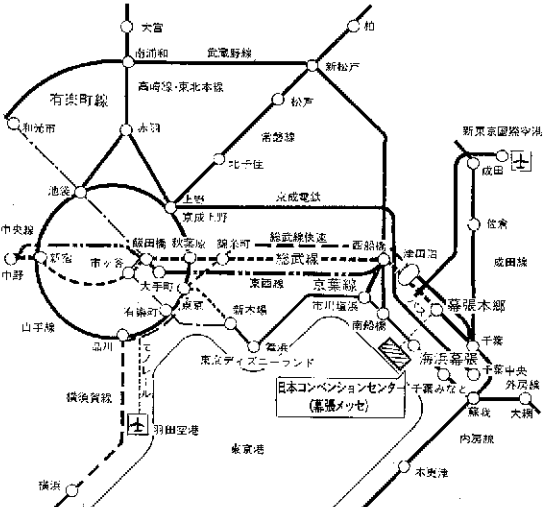
## 第一回生涯学習フェスティバルへの誘い 千葉県幕張メッセを会場に

文部省・千葉県・同教育委員会などの主催により、来る11月28日から27日にわたり、千葉市幕張メッセを会場に、第一回生涯学習フェスティバルを開催する。

イベントセクション、メインセクション、展示セクションの三つの部門に分かれ、はじめての学習フェスティバルが開催される。

展示セクション(24日～27日) 生涯学習見本市が10時～17時に開かれ、主催者ゾーン・企業ゾーンの他に全日本ふるさと創

- まなびピア映画祭
  - 生涯学習映像フェスティバル
  - 生涯学習とボランティア研修の集い
  - まなびすとシンポジウム
  - 自主グループ交流の広場
  - 家庭教育のフォーラム
  - ニューモラル敬老国際シンポジウム
  - 「豊かな出合い」研究講座
  - あなたは今カメラマン
  - 21世紀を生きる子どもたちのために「講演・教育相談あり方
  - 英会話教室・高校開放講座
  - 生涯学習時代の大学開校のあり方
- 他にもレトロ広場など多数のイベントが用意される。



【鉄道】

〔東京一帯線〕	幕張駅	40分
JR総武線 東京駅		
〔大手町一帯線〕		
営団東西線 大手町駅西船場駅	JR京葉線	海浜幕張駅 40分
営団有楽町線 有楽町駅 新木場	JR京葉線	海浜幕張駅 40分
〔上野一帯線〕		
京成電鉄 上野駅	京成幕張駅	50分
〔千葉港一帯線〕		
JR京葉線 千葉港駅	海浜幕張駅	10分

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部120円 年共1,440円】

入場無料 詳細の開催案内は、県社会教育課、市町村教育委員会にあり。関心ある向きは問い合わせられたい。

あとがき

◇本紙公民館月報の個人購読について、前回の評議員会でお願ひし、月報十月号でも依頼文を掲載しましたところ、各地から購読申込みがとどきつつあります。中でも、小千谷市公民館では、篠田朝隆館長さんの特段のはからいで十名の方から、横越村公民館では三名の方から申し込みをいただいております。

こうしたご支援が何より嬉しく感じます。月報の紙面をますます充実しなければと、責任を感じているところです。他の市町村からもこのあとに続いて、個人購読者の増加にお力を貸してください。

(上村)